



学校教育懇談員の
伊藤晴美さん

学校と地域の 間に新しい風を

懇談員は、元教員や弁護士など経験豊富なばかり。懇談会では学校の現状と課題について活発に意見が出されます。中央ブロックではクラスの減少など共通の課題があり、学校間の情報交換も求められます。

いまの子どもたちには地域のかたとふれ合い、地域で学べる機会をつくる必要があります。学校開放や児童館の活用といった選択肢を増やすことで、子どもたちと地域の距離もより縮まるはず。

この懇談員制度をきっかけに学校と地域の間に新しい風を吹き込むことができればいいですね。



ゆめ秋田21にも教育懇談員が出席。生徒の声を聞きました

学校教育懇談員

小・中学校と家庭、地域の 連携をサポートしています

地域の声を 学校に伝えます

文部科学省では、地域の人の意見や地域住民の意向を把握しながら学校の運営を支援していくことというものです。市でも、この制度にもとづき平成十二年度に「学校教育

懇談員」を中高一貫校の御所野学院中・高校に置きました。今年度は、市内の小・中学校を五ブロックにわけ、まず小学校九校、中学校三校からなる中央ブロックに懇談員を置き、現在十二人が活動しています。来年度には、他のすべてのブロックにも懇談員を配置する予定です。

開かれた学校づくり をすすめます

中央ブロックの懇談員のみならず、年二回の懇談会のほか、各校長の求めに応じ随時意見を述べることになっています。「地域のかたの率直な声が聞ける」「他校の取り組みがわかる」などと学校にはたいへん好評です。

子どもの健全育成には、学校と地域がお互いにわかりあって教育を進めていくことが必要です。その役割を担う懇談員の人たちの提言で、学校もよりいきいきとしたものとなっていくことでしょ。

子ども商業体験

いらっしやいませ！ 元気に言えたよ

十月二十七日、子どもたちに将来の仕事や進路を考えてもらおうと、地域のお店の協力で、販売などの仕事を行う「子ども商業体験」が行われました。

参加した三十五人の小学生は、通町、仲小路、市民市場の三か所で活動。なれない雰囲気戸惑いながら、威勢のいい声の出し方や接客などを店員さんから学び、貴重な体験をしました。



「ぜんざいどうぞ！」店頭販売で



お客とのコミュニケーションが大事